

新選組流山に入る



流山の可愛らしい新撰組のイメージ。市立博物館でスタンプにもなった

流山・調布・日野三市で新選組まつり

新選組ゆかりの地ということで、日野・調布・流山の三市が共同の「新選組スタンプラリー」を七月から九月まで開催した。三市の会場を訪れてもらい、町おこしに役立てようという。

流山市では、市立博物館に資料を展示する一方、文化会館で「新選組の子孫と語る会」を開き、天然理心流の演武も見せてくれた。近藤勇の娘たまは嫁して一子を生んだが、日露戦争で戦病死し、直系は絶えたと聞いていたが、ご子孫が堂々とお話され、沖田総司、榎本武揚らの後裔も見えていた。

日野では土方歳三が生まれ、調布では近藤勇が生まれている。そういう事実が流山にはない。ただ、慶応四年四月三日、官軍が押し寄せ、長岡本陣の江戸方は大敗したという恩田家文書が展示されている。流山にきた理由を、①会津藩と合流のため②慶喜警護のため③反撃のため、とし、「皆様のご意見をお聞かせください」と言う。



末広クラブ・逆井漫歩74 平成16年9月

近藤勇、流山で再挙をはかるが自首し処刑

「甲州勝沼の一戦で潰乱し、近藤（勇）らはふたたび武州にかえってくるのだが、勝（海舟）はその近藤を江戸には置かず、うまくそそのかして流山で再挙をはからせた。その流山が近藤にとって最後の土地になった」

これは司馬遼太郎の「街道を行く」の一文である。近藤（大久保大和と名乗っていた）は再挙どころか、流山で官軍に囲まれ、ついに自首、二十一日後に処刑される。一緒にいた土方歳三は江戸にゆき、海舟に近藤の助命嘆願の依頼をしたが間に合わなかったという。

たくて重い天然理心流の木刀 宮川勝五郎
といった近藤勇は、天然理心流宗家三代目の近藤周平の養子となり、近辺に出稽古に行く。左の写真は九代目宗家の演武。気合の入った勝負が期待されたが、撮影はご法度、無念。下げている木刀に注目。重さが一・七五キログラム（普通は〇・五八キログラム）、柄回りは一七・五センチ（一〇センチ）で、展示品を持ち上げても、握りきれない。これがぶつかり合うと、バシッという音がする。